

日本人について考えたこと



ネヴィーン・モヘセン・サミール

出身	エジプト
職業等	筑波大学
在日期間	6ヶ月

きょうは、ニホンニアニホンジンについて考えたことについて発表させていただきたいと思います。

私は、初めて日本に来たとき、一番気がついたのは、日本人とエジプト人の性格の違いです。

大学に入って、日本語学科を選んでから、ニホンニアニホンジンについてたくさんのことがわかるようになりました。

まず、日本人について気がついたのは、あまり感情を顔に出さないということです。大学1年生のとき、先生たちはみんな同じ表情で授業をしていました。私はびっくりしました。先生は、今、怒っているのは、喜んでいるのか、わかりませんでした。

また、試験にいい成績をとったら、悪い成績をとったら、先生の話し方や顔は全然変わりませんでした。時々、私はがっかりしました。

多分、それは日本人にとって普通かもしれませんが、エジプト人の私にとってそんなことに全然慣れていません。エジプトでは、先生たちが怒っているときもあるし、喜んでいるときもあります。誰かが試験にいい成績をとったら、先生に褒められてプレゼントをもらうこともあります。私にとってプレゼントはあまり必要ではありませんが、頑張ったというとき、誰かに褒められるともっと頑張りたいくなります。しかし、いくら頑張っても全然褒められないとあまり勉強したくなくなって、頑張りたいという気持ちはなくなってしまいかもしれません。

あるとき、私は日本人の先生とそのことについて相談しました。先生が、学生たちが頑張らないといけなのは自分のため、先生のためではありません。もちろん私がうれしくなりますが、ある学生たちは褒められると自分が一番と思ってあまり頑張らなくなりました。また、悪いことをしたら、それは自分自身に悪い影響を与えるので、先生が叱る必要はないとおっしゃいました。

私はそれを聞くとびっくりしました。しかし、よく考えてみると、それはまことに正しいことだと思います。私も先生によく褒められると気を抜いてしまってあまり勉強したくなくなります。そのときから、どうして日本人の先生たちはあまり感情を出さないのかわかるようになりました。

しかし、私がびっくりしたのは、ある日本人は友達の前でも感情をあまり顔に出しません。国によって文化が違っていることがよくわかっていますが、例えば、エジプトでは、相手に親しい気持ちを持っていたら、それは言葉でも行動でも表すことがあります。例えば、エジプトでは、キスしたりハグしたりすることが多いです。しかし、日本では、相手に親しい気持ちを持っていたら、それは直接表さないで、相手が好きなことや喜ぶことをしてあげることが多いです。

さて、私がさっき述べたように、先生がおっしゃったのは正しいと思いますが、友達に対して感情を顔に出さないのはあまりよくないことだと思います。私たちは人間ですから、泣いたり怒ったり笑ったりすることが多いです。また、困っているときや悩んでいるときに誰かと話をすることは必要です。それで、心をもっと開いて、いつも考えていることや感じていることを友達に顔に出したほうがいいと思います。

もちろん、感情を出しすぎるのはあまりよくないことです。中には、自分の問題で、自分自身で解決したほうがいいです。ほかの人に迷惑をかけなくてもいいというときもあります。

しかし、ずっと感情を出さないのは、いつも友達の前でも感情を出さないのはあまりよくないと思います。ストレスがかかってしまい、精神的な病気になる可能性があると思います。

私は、日本の社会について調べたとき、自殺事件が非常に増えてきました。また、学校ではいじめの問題が非常に増えてきました。学生たちは、その問題にうんざりしても、両親に何も言わずに、悩んでいることも相談せずに自殺してしまいます。子どもたちは、両親の前でさえ本当の気持ちを顔に出しません。それは本当に悪くて危険な問題だと思います。

最後に、私が言いたいのは、人間の気持ちは風船みたいです。中にある気持ちを少しずつ出さないと、どんどんたまって行って、最後に爆発してしまいます。そうならないために、日本人にそのことを直してほしいと思います。

では、ご清聴本当にどうもありがとうございました。